

「幼保小中連携による豊かな心を育む交流活動」 ～開く つなげる とともに～

秋葉小学校では、幼保小中連携の交流活動を通し、自己有用感や自尊感情を高め、豊かな人間関係をつくる取組を行っています。

小学校の隣には中学校が、そして徒歩圏内に3つの幼稚園・保育園があることから総合的な学習の時間を通して「交流」をテーマとした学習活動が展開されています。

5年1組は、総合的な学習の時間で近隣の幼稚園・保育園と交流活動を行ってきました。

来年度、6年生となった時、1年生と多くの交流があることから、「今から仲良くなりたい」「年長さんに小学校を知ってもらいたい」という思いから活動が始まりました。

訪問する日時を決めるために児童自らが電話連絡をとりました。あまり面識のない相手に電話をかける経験が無い児童は、はじめは戸惑っていましたが、自分の名前を名乗ることや感謝の気持ちを伝えることなども含め、学習することができました。

訪問先での活動内容は児童自身が計画を立てました。年長児が



秋葉保育園での交流活動（絵本の読み聞かせ）

何人いるのか、どれくらいの活動スペースがあるのかを事前に調べ、それを踏まえた上で全員が安全に楽しめる内容を考え、実践しました。

交流先の園で秋葉小学校の学校長が創作した「思いやりの山」というお話をプレゼントしたところ、秋葉保育園では「この話を劇にした」という思いが生まれました。

秋葉保育園の行事で秋葉中学校吹奏楽部が演奏したこともあり、返礼として、秋葉中学校で劇を上演することが決定しました。

発表当日は5年1組の児童が招待され、幼保小中が交流活動によって一体となったことを実感することができました。

児童は、年長児と関わることで、「頼りにされた」「自分がしたことを喜んでくれた」と実感し、児童は自己有用感や自尊感情を高めることができました。また、交流活動に向けて計画を立てる際に、グループやクラスでアイデアを出し合い、話し合いを重ねる姿に交流活動に対する主体性や協働的に取り組む姿勢が見られました。それに伴い、他の教科領域、学校生活全般においても力を合わせながら前向きに取り組もうという意欲が高まりました。さらに、この交流活動を幼稚園・保育園、さらには中学校へと輪を広げたことによってクラスでの総合的な学習が、互いの連携協働の促進の一助となりました。

幼保小中が一体となった教育活動の展開は、「小一プロブレム」や「中一ギャップ」といった問題の解消にもつながるのではないかと考えています。



秋葉幼稚園での交流活動（学校クイズ）



銀杏保育園で「思いやりの山」プレゼント



秋葉保育園による秋葉中学校での劇「思いやりの山」上演